

令和7年2月 岡崎市文化財保護審議会会議録

開催日時：令和7年2月19日（水） 午前10時00分～午前11時45分

開催場所：岡崎市役所分館2階 202号室

出席委員：8名

杉野丞委員（会長）・荒井信貴委員（会長職務代理者）・奥田敏春委員・杉坂美典委員・鷹巣純委員・堀江登志実委員・山田伸子委員・渡邊幹男委員

欠席委員：1名

内田尚之委員

説明のために出席した事務局職員：8名

二村雅志教育部長

社会教育課：田中典子課長・原林基昭副課長・遠藤研吾岡崎城跡係長・岡山幸男文化財係長・浦野加穂子主査・平山優主事・水船早紀会計年度任用職員

都市基盤部（担当課）：本多徳行専門監

傍聴者：なし

議事内容

1 諮問事項

(1) 市指定史跡岡崎城跡の現状変更（サクラの植樹）について

2 報告事項

(1) 市指定史跡岡崎城跡龍城堀発掘調査成果について

3 その他

(1) 次回の審議会開催について

議題及び議事の要旨

1 諮問事項

(1) 市指定史跡岡崎城跡の現状変更（サクラの植樹）について

【事務局説明】

本案件は、岡崎市から申請書が提出された、岡崎城跡内にサクラの植栽を行うもの。現状変更を必要とする理由については、令和6年に岡崎市において、桜の景観を再生するためのプロジェクトが始動し、岡崎城跡において、岡崎城跡植栽管理計画サクラ管理計画編を作成し、その計画に基づく植栽を進めているため。今回植樹を行う場所は、岡崎城跡龍城堀南斜面。植樹する本数は12本で、サクラの品種はジンダイアケボノ。

当該地は平成27年度の園路拡幅時に盛土された場所であり、植栽については盛土の範囲に収まるため現状変更等によって生じる遺構への影響はない。また、下段についても、盛土内に防根シートを設置するため、桜の成長後も遺構への影響はない。

本案件については、1月27日の岡崎城跡整備委員会に諮りご審議いただいた。

【担当課説明】

桜花咲プロジェクトの概要説明。岡崎城公園、伊賀川、乙川に咲くほとんどの桜が寿命を迎えており、市議会や市民の方から指摘があった。事実、約9年前から岡崎城公園内の桜は22本、乙川は14本減った。また、当時の樹勢診断結果は、健全から並が13.5%、やや衰弱から衰弱が86.5%という状況だった。岡崎市では9年前、市政施行100周年記念として桜を市の花に指定し、市内各地で桜の植樹をしてきたが、乙川・伊賀川を含む岡崎城公園周辺

では平成 27 年度を最後に植樹が進んでいない状況。桜を再生させ、桜名所の景観を未来に繋ぐためプロジェクトを立ち上げた。

これまで、市内外の民間企業や多くの協力者に大切に守られてきたことから、税金を財源にするのではなく、クラウドファンディングによる寄付を募りながら桜のある景観を後世にまで繋げるために取り組む。史跡に支障が出ない範囲での実施を前提とし、単に植樹を優先させるのではなく、既存の桜については樹木カルテの更新、樹勢回復を平行して行う。

【質疑応答】

委員：城跡景観をどう考えるのか。桜景観と城跡景観をどう折り合いを付けるのか考えていってほしい。また、岡崎城跡整備委員会で、桜を 10m ピッチで植えるような指示が出たが適切なのか。

委員：明治時代に植えた桜の種は何か。城跡に桜を植えるのは反対しないが、岡崎城跡にジンダイアケボノを植えるのは種としてそぐわないので、ヤマザクラやエドヒガンなどを植えて欲しい。ジンダイアケボノを植えても百年後に同じ問題が発生することが推測されるので、植える種を再検討してほしい。短期間の展望でジンダイアケボノを植えるなら 10m ピッチで植えても問題ない。

都市基盤部：明治時代にどの種を植えたのかは把握していないが、ソメイヨシノが戦後植えられたのは事実。日本花の会がソメイヨシノを全国的に広めて、結果的に病気が蔓延した反省から、ソメイヨシノと同時期に花を付けるジンダイアケボノを推奨している。市としても 100 周年の事業の頃にほぼジンダイアケボノを植えている。ゾーニングが大事だと考えている。龍城堀の南側はソメイヨシノが既に植えられており、間を縫ってジンダイアケボノを植えて景観を維持したい。エドヒガンは二の丸に現在も 3 本ほど植わっている。時間があればゾーニングをしながら植えていきたいという希望があるが、史跡のため希望が通ると思っていない。10m ピッチで植えるのは、ジンダイアケボノはソメイヨシノより小ぶりで、成長した段階で間引く予定だから。現状のソメイヨシノもかなり密に植えられているため、伐採しつつ延命するところは延命していきたい。城跡整備委員会で指摘を沢山いただき、それに沿った形で内容を見直している。

委員：12 本植えるのは過密ではないか。下段は防根シートを敷くものの遺構面に影響がでないか心配。報告事項(1)で、樹根等により石垣の背後の堆積層に隙間ができることが石垣崩落の原因となったと結論づけている。石垣との距離をもう少しとるべきで、12 本植えず中段までに止める等の対応ができないのか。

都市基盤部：下段より上の方に植える予定。

委員：城跡と公園、両者の計画をすり合わせて進めて欲しい。

委員：樹木 1 本 1 本のカルテはあるのか。

都市基盤部：今までも簡易調査と追跡調査を行っているが、全ての木で行えていないため、クラウドファンディングの資金を使いながらカルテを作成していきたい。

委員：十分な議論を行った上で計画を始めてほしいので、12 本の詳細なカルテを文化財保護審議会に提出して欲しい。文化財部局としては都市基盤部との今後の話し合いをどのようなスタンスでいくのか。

事務局：桜プロジェクトは企画課が主導で、公園管理の面で都市基盤部が担当、岡崎城跡が植える候補地になったため、社会教育課もメンバーに入っている。長期的に史跡をどうするのか、全庁的に一緒に考えてもらいながら桜を植えていって欲しいというスタンスでメンバーに入っている。今後は、史跡について社会教

育課として発信し、プロジェクトの中でも長期的に史跡をどうしたいか話し合
っていききたい。また、整備計画の見直しも図っていく。

委員：桜を植える本数が多すぎる。既存の6本でも多いのに、新たに12本を小さい
場所に植えるのは無理があるのではないか。案自体考え直してほしい。

委員：ジンダイアケボノはアメリカで作られた種。岡崎城跡だけ昔からあるエドヒガ
ンに変えれば、岡崎城跡のアピールにも繋がる。植えることは了解するので、
エドヒガンに交換して欲しい。エドヒガンは一本一本別のモノが来る。遺伝子
を調べて実態を把握しながら植えたという付加価値を付け、岡崎城跡の価値を
高めることがこのプロジェクトの落としどころ。

委員：江戸時代に岡崎城の中に桜がなかったという考えは見直すべき。備前曲輪に中
根という家老が住んでおり、庭に桜が描かれている絵図が2・3枚ある(『中
根家文書』)。他の藩士たちの庭に桜があってもおかしくない。明治初期に岡
崎城公園にいち早く植えたというのは在来のモノを取り込んで植えたのでは
ないか。『参河聡視録』にも江戸時代中期から桜があった記録もある。江戸時
代から桜があったことを踏まえると、史跡公園整備の中で在来のモノを接ぎ木
等で植えるのがいいのではないか。

委員：桜の種目変更は可能かどうか。種目変更に伴う樹木の間隔変更等について都市
基盤部の意見を聞きたい。

都市基盤部：全てをエドヒガンとはできないが、ゾーニングをしていきたい。花の咲く時期
が似ており、ソメイヨシノとバランス良く咲くと綺麗なジンダイアケボノを今
回は植えたい。他の地域のゾーニングに関しては、景観に合った形にしたい。

委員：今回の植える位置では、既存のソメイヨシノが枯れたらジンダイアケボノを植
えていくのか。

都市基盤部：枯れたら植え替えるのではなく、枯れないように管理することを目指していく。

委員：今回の12本に関してはジンダイアケボノを、ソメイヨシノとは異なるけど植
えていくということですか。

都市基盤部：変わるといってもソメイヨシノに似た品種。

委員：ソメイヨシノに似た品種なら、エドヒガンはソメイヨシノの親にあたる。ジン
ダイアケボノを植える意味が分からない。ジンダイアケボノを植えてこれから
どんな被害がでるかまだ不明。エドヒガンなら昔からあって今の時点では大丈
夫だという保証がある。ジンダイアケボノをまだ購入していないなら変更する
ことが可能。同時期に咲くといったが、エドヒガンも同時期に咲く、若干早く
咲き、景観から言ったらソメイヨシノとエドヒガンの方が花見の時期が長くな
る。そっちの方が市民は喜ぶ。岡崎城跡の観点でいったら、エドヒガンを植
える方が理にかなっている。

諮問結果：植栽の位置、間隔、植種について3月上旬までに再度検討していただくこと
で、可とする。

2 報告事項

(1) 市指定史跡岡崎城跡龍城堀発掘調査成果について

【事務局説明】

現地作業は令和6年10月25日から着手し、令和7年1月17日に完了した。調査面積は

合計 58 m²。

堀の固化面より上の石垣 1.8m 部分は、現代の積直しということが判明。その下部からは、近世に下る可能性がある石垣が残存。

石垣変状については、現代のゆるい土砂による積直し方法が原因で石垣背後の土砂が流れ出してしまう、これが原因で石垣が倒れ込んで崩落が発生したものと考えられる。そのため、積直しに際しては、土砂流出防止策として栗石を背後に固く充填し、築石についてはできる限り石垣撤去前の石積み状態に戻す、という方針としたいと考えている。石垣を江戸時代の方法で積み直す方法もあるが、石垣からは江戸時代の状況について読みとくことが困難なため、積み方のベースには撤去前のものを採用する方向で岡崎城跡整備委員会にてご承諾いただいた。

【質疑応答】

委員：この辺一帯は、基本的には現状の石積みから新しいところは把握できているのか。

事務局：平成初期の頃に神橋の橋脚等を作る時に工事を行った辺り、石垣を取り外したところはある程度できている。

委員：近代以降に積み直した部分は、岡崎城全域にわたってある程度把握できているなら、石垣が崩れる可能性があるところが分かる。どうしていくかは長期的展望に立って、城跡整備委員会で整備計画を立てていくべき。石垣を洋風に積み直したところが結構ある。岡崎城をどう古い形に戻していくかも含めて手順をきちんとしてほしい。

委員：崩れた土は埋戻すのか。

事務局：栗石をつめながら、石垣を元の状態に戻す。その際、元々の発生土を使用する。

委員：土は足らなくなるのか。

事務局：栗石は新しいモノを使用し詰めるため、逆に土は余る。

委員：余った土が欲しい。昔の土なら埋土種子がある可能性があり、その時代の植生状況が分かる可能性がある。外来種が出てくれば過去の石垣積み直しの推定もできる。

事務局：必要な量は。

委員：400～500 g あればいい。

事務局：現在、発掘調査後、土嚢で止めている。来年度石垣の積み直しの予定で、今の土を削らなければならない作業が出てくる。提供は可能。

委員：立ち会えるなら立ち会いたい。

3 その他

- (1) 次回の審議会開催について
令和 7 年 6 月に開催予定。